

で(途中F1三峠がある)今朝登っていった右俣(どちらかといえは本流)との合流点に着く。一五分程で橋(金山沢橋)まで下り林道を歩いて車を置いてある所まで行き吾妻川を遡行したパーティと落ち合った。

(記: . . .)

[タイム]

下降開始一二・五〇—二俣一四・四〇—金山沢橋一四・五五

戸倉川右俣右沢

一九七九年七月二十二日

◆天気(晴)

未知の沢を登るときには胸がわくわくしてくる。たとえ地図をみて、たぶん大きな滝はないだろうと予測ができて、突然に二〇mも三〇mもの大きな滝が現われることを期待して一步一步遡行していく。

この戸倉沢は白布峠に源をおこす標高差約五〇〇m程の中規模の沢である。数ヶ所にナメコ栽培地があつて沢沿いにだいたい奥まで道が入っており、丸太橋がかかつて

いた。ちよつとしたゴルジュがあつたが、滝は我々の期待に反して強いてとりあげる程のものではなかった。このように奥まで道のついた沢は沢登りとしての興味には全く欠ける。

(記: . . .)

[タイム]

出合六・二五—二俣六・四五—終了八・五〇

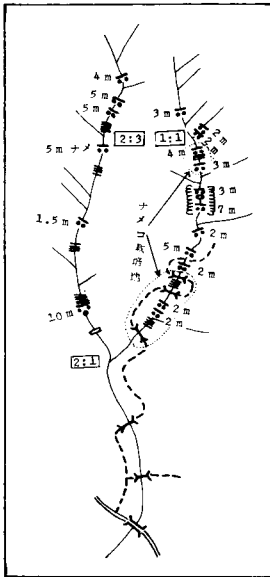
戸倉川右俣左沢

(下降)

一九七九年七月二十二日

◆天気(晴)

九時一〇分下降開始。最初五m程の小滝が三つ出てきて、これならと期待させたがその先は平凡。おまけにブ



戸倉川右俣
(作図: 洋)